

最 終 試 験 の 結 果 の 要 旨

神奈川歯科大学高度先進インプラント歯周病学分野 佐藤五月 に対する最終試験は、
主査 青山典生 准教授、副査 森本佳成 教授、副査 青木一孝 教授 により、
論文内容ならびに関連事項につき口頭試問をもって行われた。

また、外国語の試験は、主査 青山典生 准教授 によって、英語の文献読解力に
ついて申請された本論文や参考文献により行われた。

その結果、合格と認めた。

主 査 青山 典生 准教授

副 査 森本 佳成 教授

副 査 青木 一孝 教授

論文審査要旨

A cross-sectional study assessing the relationship between
non-alcoholic fatty liver disease and periodontal disease

神奈川歯科大学 高度先進インプラント歯周病学分野

診療科助手 佐藤 五月

(指導：児玉 利朗 教授)

主査 青山 典生 准教授

副査 森本 佳成 教授

副査 青木 一孝 教授

論文審査要旨

学位申請論文である「A cross-sectional study assessing the relationship between non-alcoholic fatty liver disease and periodontal disease」は、歯周病と非アルコール性脂肪性肝疾患（以下、NAFLD）の関連を臨床的に検討し、歯周病の進行と肝硬度的上昇との関連を示した論文である。

NAFLDは、最終的に肝硬変や肝細胞がんを引き起こす、一般的な肝疾患のひとつである。アルコール摂取の多い人が脂肪肝を発症しやすいことはよく知られているが、最近の研究からアルコールをほとんどまたはまったく摂取しない人でも脂肪肝が発生することがわかっている。歯周病とNAFLDとの関連は検討が始まったばかりであることから知られていないことも多く、関連の調査の必要性が高まっている。本論文は、上記の背景から、新規性のある論文テーマと評価した。

研究方法の概略は以下のとおりである。2015年8月から2019年4月の間に、NAFLD患者164人に対し、横断的な検査を行った。血液学的検査を行い、さらに*Porphyromonas gingivalis*に対する血清抗体価を測定した。歯周ポケット測定など、臨床的な歯周病検査を行った。唾液を採取し、ポリメラーゼ連鎖反応を用いて唾液中の*P. gingivalis*の計測を行った。超音波エラストグラフィおよび磁気共鳴画像を用い、肝臓の脂肪量および硬度を評価した。検定方法として、*t*検定およびWilcoxon順位検定を用いて、群間の差を評価した。これらの方法は文献や既存の方法に基づいており妥当なものである。研究実施にあたり神奈川歯科大学研究倫理審査委員会の承認を得ており、さらにすべての被験者からはインフォームドコンセントを得ていることから、倫理的な配慮についても適切な対応がなされている。

結果として、唾液中*P. gingivalis*が多く検出された群では肝硬度が高いことが認められ、歯周病と肝硬度との関連を明確に示した。考察においても一貫した論理が展開され、明確な結論を導くに至っている。研究の限界としてNAFLDの病状についての評価が十分でないことを挙げており、結果に対する科学的で真摯な態度が認められる。臨床において歯周病とNAFLDが関連することを示すとともに、主要な歯周病原細菌である*P. gingivalis*の関与を示唆する本研究報告は、今後の医科歯科連携への波及効果という点でも価値のある論文であると高く評価できる。

本審査委員会は、論文内容および関連事項に関して、口頭試問を行ったところ十分な回答が得られることを確認した。さらに本研究における新しい知見は、今後の歯科医療への貢献が期待でき、ペリオドンタルメディシン研究の発展につながるとの結論に至った。

本審査委員会は申請者の博士論文が博士（歯学）の学位に十分に値するものと認めた。